

第40回 2016年9月28日(水)

ゲスト 山中 真(毎日放送アナウンサー)

テーマ 「リオ・オリンピック」を取材して 現地報告

～日本の放送は「リオ・オリンピック」をどう伝えたか～

主な内容

- ◎大阪のテレビ局リポーターによる「リオ・五輪」の現地報告
- ◎『ちちんぷいぷい』の「リアル世界くん」で特別取材～「リオ・五輪」の24日間～
- ◎一軒家を借り取材・編集の拠点に ファベラ(貧民街)に隣接
- ◎オリンピック競技場への足 3両編成のバスがピストン運転
- ◎バス停から競技場まで徒歩30分 取材班の万歩計は毎日1万～2万歩
- ◎競技への妨害恐れ コーラなどペットボトルのふたを取り販売
- ◎会場にはレストランがなく 食事求めて屋台に長い行列
- ◎チケットは会場で購入できた ブラジル人は高額で敬遠か
- ◎周辺取材が原則の大阪局「ちちんぷいぷい」取材班にジレンマ
- ◎銅メダルの日本人選手より対戦相手の日系ブラジル人に焦点当てる～男子柔道～
- ◎女子マラソン・福士選手が投げしてくれた“帽子とサングラス”を見事キャッチ
- ◎“飛び込み”に心動かされる 女子高校生の選手に密着
- ◎こんな周辺取材も“アマゾンの大魚を養殖 刺身に”“観光用ファベラ”
- ◎リオのファベラは700か所、一か所だけ“観光用”に開放
- ◎オリンピックパーク近くのファベラ500世帯ほぼ撤去 一軒だけ立ち退き拒否

【資料】「リオ・五輪」NHK・民放の放送日程、五輪放送への論評

<大阪のテレビ局リポーターによる「リオ・五輪」の現地報告>

司会 久々の「メディアウオッチング」の例会です。前回6月は東日本大震災から5年ということで、福島原発の現状と全村避難が続く飯舘村を訪ねてきました。

(西村嘉郎関西民放クラブ会長、北野栄三前会長他「メディアウオッチング」のメンバーを中心に11人。関心のある方はネットにアップされた福島視察の報告をご覧ください)。

ところで、今日のテーマは、まだ皆さま方のご記憶に新しい「リオ五輪・パラリンピック」です。卓球のメダリスト福原愛ちゃんの結婚や水泳選手がパラリンピック選手と一緒に記者会見したニュースなどホットな話題が続いています。

そこで今日は、リオ五輪を現地で取材された現役バリバリの毎日放送のアナウンサー山中真さんにハードスケジュールを調整してお越しいただきました。

毎日放送の看板番組「ちちんぷいぷい」に、リポーターとしてレギュラー出演しておられます。簡単にプロフィールをご紹介します。東京都出身で1976年生まれです。ご本人によると「放研」でも「アナ研」でもない、商社マンになりたかったということだったようですが、早稲田大学卒業後2001年、毎日放送に入社です。ジャンルは報道番組、情報番組となっていますが、現在は「ちちんぷいぷい」の取材を担当。

Web上の百科事典【ウィキペディア】によると、彼の項目には非常にたくさんの方が書かれています。

今日は「日本の放送はリオ五輪どう伝えたか」、そしてその総点検というスタイルで話を進めてまいります。山中アナウンサーが、リオ五輪をどんな観点から取材し、どう感じたか。まずリオ五輪に行かれたきっかけからお話をお願いします。毎日放送の山中真アナウンサーです。

<『ちちんぷいぷい』の「リアル世界くん」で特別取材～「リオ・五輪」の24日間～>

山中氏 毎日放送のアナウンサー山中と申します。

今日は「ちちんぷいぷい」の担当で藤原紀香さんの結婚披露宴の取材に行けるかと言われましたが「いいえ、大事な会議があります」ということで、紀香さんのほうは後輩のアナウンサーにまかせて、こちらに参りました。

大先輩を前にお話するというだけで大変恐縮しており、僕自身がウオッチングされるのかなと、正直ビビっております。(「関西民放クラブ」)のホームページによると、この例会で過去にお話されているのは大御所の方ばかりで、私のような若輩者が誠に僭越ではありますが、お付き合いいただければと思います。

2001年の入社で東京都出身。アナウンサーとして現在16年目をむかえました。スポーツ実況以外は、この16年間、報道やバラエティー番組から、体を張ったフルマラソンまで、いろいろな取材、レポートをしてきました。

ここ 5, 6 年は世界を飛び回る取材が中心になってきました。「リアル世界くん」というコーナーが「ちちんぷいぷい」にあるんですが、今日は写真を見ながら話を進めていきます。テレビ局なのに動画でなくて申し訳ありません。

「リアル世界くん」という 20 分位のコーナー企画で、スタッフはリポーターの私を含めて 4 人、大体 10 日から 2 週間ぐらい滞在します。多いときには周辺国を合わせて 2 か国から 3 か国取材し、滞在中に生中継、また現地で取材した素材 (VTR) を編集して、送出することもあります。

帰国後も、スタジオでレポートしますので、1 か国で取材したものを大体 6 回から 9 回ぐらい「リアル世界くん」の企画として放送することになります。

これまで 50 か国近く取材し、南極を含めて 5 大陸すべて回りました。変動激しいキューバ、イラン、ミャンマーといった国々にも入り取材、報告しました。

インドには 70 日間、約 2 か月半で一周しました。この 11 月 (2016 年) には、アメリカ大統領選挙の 3 度目の取材を予定しています。先日、アメリカ大統領予備選挙の取材の際、ヒラリー・クリントンに私の携帯電話を渡して、ツーショットを撮ってもらいました (写真を示す)。これは「リアル世界くん」特別企画なんです。

「ちちんぷいぷい」のオリンピック取材は、アテネ・オリンピック (2004 年) のときから毎回行っていて、私自身がオリンピック取材に行くのは今回が初めてです。

「リアル世界くん」の通常取材のリポーターは 1 人ですが、今回は特別版ということでリポーターは私を含めて 3 人行きました。私のほか、元阪神タイガースのピッチャー遠山奨志さん、それにもう一人元トランポリン選手 (日本代表) の廣田遥ちゃんです。ですから取材陣もいつもより多くて、ディレクターが 5 人、カメラマン 2 人、計 10 人がリオデジャネイロに入りました。

< “学ラン” スタイルで取材 東京キー局とは異なる視点で「リオ・五輪」を記録 >

8 月 2 日から 8 月 25 日まで、オリンピックの開会式から閉会式まで 24 日間滞在し、周辺取材を中心に東京キー局とは異なる視点で「リオ五輪」を取材、記録してきました。

(写真は“学ラン”スタイルの山中アナウンサーが現場の雰囲気を実況に伝えていた。)

学ラン姿のリポーターがスタンドから応援しながら取材する、リポーターが「応援マン」というスタイルで、レポートするのをコンセプトにしていました。(この「学ランスタイル」の応援が女子マラソンの沿道や各競技場で意外と存在感を示した)。取材班の一日はざっくりこんな感じです。大体朝から夜まで、取材 (ロケ)。そしてディレクターは途中で現場を離れ、夕方から夜中にかけて取材した素材を編集して、日本へ送出する。その間タイミング見て、仮眠する。日本との時差が 12 時間なので、夜中の 3 時から 4 時に日本に向けて生中継をする。それから少し仮眠して、

また朝から取材に向かう。という繰り返しの日々を送っていました。

(写真 編集室を兼ねた大広間でくつろぐスタッフ)

この写真を見ると、大分リラックスしていますが、我々取材班は10人、それに現地コーディネーターが3人加わり、13人で生活していました。男性11人は一軒家を二棟借りて共同生活していましたが、女性2人は治安の問題もあって、ホテルに宿泊してもらいました。

撮影機材としては、今回はコスト面などいろいろな事情で大きなENGカメラは持ってきませんでした。持ってきたのは民間でも使っている「デジ」と呼ばれる小さなカメラ4台です。

この体制でロケをして、ビデオ編集はパソコンで行い、日本へ電送していました。

もちろん生中継をするときも、この「デジ」カメラを使いました。

先ほど取材体制をコーディネーター(通訳兼)3人を含め13人と言いましたが、治安が悪いということで、さらにボディーガード2人が毎日付いて、ロケ車を2台(ドライバー付き)使いますので、合計すると、制作陣は17人ということになります。ただリポーターが3人いて、ときには2班ないし3班に分かれてロケに出ることもありましたが、取材後、それぞれの情報を共有することにしていました。

<一軒家を借り取材・編集の拠点に ファバーラ(貧民街)に隣接>

スタッフが滞在するため、一軒家を借りる方式にしたのは、ホテルだとコストが高くなるからです。関西ローカル局は東京に比べて、取材に使える予算がかなり少ない。女性2人が宿泊したホテルは、普段2万円ぐらいの部屋が、オリンピック期間中は6万円と3倍にはね上がっていました。それが20何日間となると、滞在費がかなり高額になるので、少しでも抑えようということで一軒家を借りて、そこを取材の拠点にしたのです。借りた一軒家は、寝室がいくつも分かれていて、リポーターの遠山さんと私の寝室は別々で、生活としてそんなに大変なことではなかったかと思っています。ただ治安面から言うと、借りた一軒家はファバーラといわれる貧民街にすぐ隣接していたので、歩いて家を出るといことは難しかった。ただ入り口にゲートがあって、高級とまではいかないが、住宅街として、警備員に守られたエリアなので、その中にいる限り治安上は大丈夫と言われていました。ただゲートを一歩出ると、そこはファバーラだったので、なかなか歩いて外に出ることは出来ませんでした。またちょっと不便な面もありました。オリンピックパークなどオリンピック競技が行われる中心エリアには1時間ほどかかる場所だったので、結構時間がかかったり、また交通渋滞に遭遇したりして、日々のアクセスには苦労しました。ところで現地に入ると、治安面などでは日本で聞いていた情報とちょっと違っていたことがありました。

日本にいるときは警察が襲撃されているとか、日本人もいろいろ強奪されている

とか悪い情報ばかりを聞いていましたので、我々もボディーガードをつけたりしましたが、少なくともオリンピック期間中、我々が訪れたオリンピック会場周辺の治安が悪いというようなことは実感としてありませんでした。

オリンピック開催中、警察としては、軍隊を総動員とまではいかないとしても、かなりの数をリオに投入して、治安の強化に当たっていたと思われ、至るところに軍人、警察官が警備に当たっていました。競技場に入場するところではしっかりセキュリティチェックもありました。

現地の人の話で一つ説得力があるなと思ったのは、もちろん銃撃戦もしょっちゅうあるのだが、ファベラを中心とした麻薬組織の上部から、オリンピック期間中は悪さをするなというお達しが出ている。お祭りのときは世界中から人が集まる、単なる観光客もいれば、ちょっと悪さをしてやろうというのもあるようで、麻薬組織からすると、こういうときはかえって売り上げ増につながる、稼ぎ時なんだと。そういうときに、こそ泥とか、ひったくりといった小さな騒ぎをおこすと観光客が町に出なくなり、そのほうが売り上げ減につながるんだという考え方で、今は悪さをするなよ、本業で稼ぐからというお達しが出ているんだそうです。

(こんな話が)まことしやかに語られていました。どこまでが本当なのか、確信はもてませんが、一定の説得力があるのかなと思いました。

(治安状況を自分の目で確かめるため)夜、かなり人の多いお祭り騒ぎになっているところに出向いてみました。

パブリックビューイングといわれる大型スクリーンや大型テレビなどオリンピック競技をみんなで見られるところ、誰でも入れる、集まれる場所ですが、何か盗まれたとか、ひったくられたとかという騒ぎはありませんでした。日本にいるのと何ら変わらない状況だと肌で感じました。

もちろんその期間中も強盗にあったとかいろいろありましたが、それもあ的一面だなと思ったことがありました。

ブラジルでは今、携帯電話のアプリに“クロスファイアー”というのがあり、「いつ、どこで、どれくらいの銃撃戦があったのか」を簡単に検索できるのです。

こういうソフトが携帯電話にあって、何時間前に銃撃戦があった、この場所は銃撃戦がよく起きているので避けて通ろうとか、リオの人は普通に検索していると聞きました。このことから、やはり普段は治安が悪いんだなあ、オリンピック、パラリンピックが終わった今、どうなっているのかなという不安な気持ちを抱いているのも事実です。

<オリンピック競技場への足 3両編成のバスがピストン運転>

ただ我々がリオデジャネイロに滞在中は危ない目に遭うことはありませんでした。そして交通面のことに少し触れておきたいと思います。オリンピックパークや競

技場周辺というのは基本的には一般車両は通行できません。電車も通っていないくて、また地下鉄は途中までしか運行されていません。オリンピックパークまでは地下鉄では行けない。工事が間に合わなかったのか、あえて延伸しなかったのか、真相は分からないままでした。

オリンピックパークに行くには、(写真に写っている) 3両編成の青色のバスしかない。この青バスはオリンピックパークといちばん近くの地下鉄の駅(20分位離れている)との間をピストン運転しています。なぜ地下鉄を延伸しなかったのか、工事が間に合わなかったのか、それともオリンピック後を考えてバスを撤去できるようにしておいたほうがいいと考えたのか、関係先を取材したが、回答が得られませんでした。

オリンピックパークに行くのにこのバスをよく利用しました。最初は乗るのがおっくうでしたが、待ち時間がなくて一本出たら、次に待機していて、どんどん出発していくということでした。一本待てば座ることも出来ましたので、乗車時間は20分余りでしたが、日々この青バスを便利に利用していました。

ただブラジルならではだなと思ったのがこのバスの運賃です。はっきり言ってもったくりでした。普通に一回乗るだけの運賃は日本円で200円位と言われていました。ブラジルに到着した日は開会式の前日でした。その日は“一回券”普通の一回だけ乗る切符は売ってくれたのですが、開会した次の日からは、ここでは“一回券”(一回乗るだけの切符)は売っていないという言い訳のもと“一日券”しか売ってくれず(一回しか乗らなくても)800円もする“一日券”を買わされることになりました。しかも僕らは開会式の日、ICチャージ式のカードを買っていたんです。あとそこに現金でチャージすれば、毎回一回分の料金で乗れるからと言われたのに、次の日になったら、いやチャージはここでは出来ないと言われて、チャージのICカードもムダになるし、“一回券”も売ってくれない。細かい、せこい話かもしれませんが、毎日、何万、何十万人と乗っているバスで、“一日券”の800円を全員からぼったくるんだと思うとなかなかいい商売だと思いました。こういうお祭りのときなので、僕ら以外誰も文句を言わずに、みんな“一日券”を買っていました。ずいぶんいい加減なやり方で、この金が誰のふところに入っているんだろうと思うと、私はくやしかったので放送でも一度現状を伝えました。

<バス停から競技場まで徒歩30分 取材班の万歩計は毎日1万~2万歩>

毎日、一回“一日券”を買わされ、青いバスに乗って通っていた会場なんです、バスを降りて、スタジアムやアリーナへ行くには20分から30分歩かなければなりません。オリンピックパーク自体かなり広いということを考えれば、やむを得ないのかもしれませんが、東京オリンピックの場合、競技を見る観客の立場からすれば、より小さな規模を目指してほしいなと思うところです。

我々は毎日、1万から2万歩は歩いているなという日々でした。もちろん足の悪い方、年配の方にとってはかなりの負担だったと思います。なるべく小さなオリンピック、各競技場との距離は近ければ近いほどいい、東京では見る人の立場も考えた、そんなオリンピックを考えてほしいなと思いつつ、とことこ日々オリンピックパークに向かっていました。

(写真 警官や軍人が立つゲート)

写真にあるように、入場ゲートでは警官だけでなく、軍人も加わって、厳重なセキュリティチェックをしていました。我々が持参した「デジ」といわれる小型のカメラも持ち込めませんでした。観光客だと言い張っても無理でした。もっと小さい手のひらサイズのカメラだったら持って入れたかもしれません。カメラを預けるコインロッカーもなければ、どうしたらいいのか。持って帰って、戻ってこいということになります。会場へ持ち込めないものを抱え、途方に暮れている人の姿をゲートで結構見ました。

会場の広さを少しでも分かってもらうために、パノラマ写真で撮ってきましたが、かなり小さく見えてしまいます。これは会場の一部です。メインのオリンピックパークだけで、9つのスタジアムがありました。競泳の会場であったり、自転車の会場であったり、柔道など行うアリーナが三つ、四つあったりと。それにテニスの会場など。そのほとんどが新設されたものです。また離れた違う地域にオリンピックの会場がありました。卓球、バドミントンなどはコンベンションホールに、ビーチバレーはビーチにあるといった具合です。

それぞれの会場はバスで行き来するようになっているんですが、結構、距離が遠くて、移動が大変でした。東京オリンピックの場合、会場へのアクセスなどについてもしっかり考えてほしいなと思いました。

とにかく、リオは広いのでぎゅうぎゅうに観客が入っているという感じではないのですが、もちろん大勢の人が観戦に来ていました。

(選手と記念撮影)写真に背の高い人が写っていますが、バレーボールの選手です。観客が選手と写真を撮ったりして、会場はかなりお祭り騒ぎという状況でした。

<競技への妨害恐れ コーラなどペットボトルのふたを取り販売>

一つ上手な商売だと思ったのは、ビールの屋台売りです。ビールをコップで売ります。水も、コーラなどの清涼飲料もふたを取って渡されるんです。これは聞くところによると、ふたを付けた状態だと、スタジアムなどへペットボトルを投げ込めるといふことで、これは危険で凶器になりうる、だから基本はふたをはずすか、コップで売られるんです。だから、飲み物を買くと、その場で飲み干すか、コップをそのまま持っていないといけない状況でした。

初めに上手な商売だと思った理由は、コップの一つ一つにラクビーとか、テニスと

か、それぞれ違う競技がいろいろ描かれているんです。コレクターがコップを集めたくなるように、またお土産にもなるということで、ビールもつい2杯、3杯とあります。ディレクターなんか、それを言い訳に飲んでいました。何十杯分も持っているお客さんがいるのを見ると、こういうアイディアなんか東京でも真似できるのかなと思いました。

<会場にはレストランがなく 食事求めて屋台に長い行列>

それ以外はすごく商売べたなんです。食事の屋台なんか連日、長い行列ができていました。食事は屋台だけで、レストランもなく、これだけ人が集まっているんだから、もっといろんなものを売ったら、売れるのにと感じでした。暑くて衛生上の問題もあったのかもしれないが、皆、食べるもの、飲むものに大変困ったオリンピックでした。食べ物を買うために炎天下並ばなければいけないので、我々も昼(食)抜きなんてことはざらで、食べるものがなくて困ったという状況でした。もちろん自動販売機などはありません。

(写真 電子レンジでチンのパスタ)

これはたまに買うことができたレンジでチンして売られていたパスタ。本当にこういうものしか売っていなかったんですね。あとはレンジでチンするバーガーとか。調理をしなくてすむようなということでピザとかも。全部“チンもの”ばかりでした。

共同生活ということで自炊すればいいんですが、(取材してきた映像素材の)編集などで時間的余裕もないので、何か買ってくることになるんです。ブラジルで買えるものも限られていて、これ(写真に写っているのは)中華料理店で買ったチャーハンなんです。なにか“エサ”にしか見えないと人に言われました。そしてテイクアウトで買ったこんなさびしい感じのお弁当。睡眠不足よりも、食事情にきゅうきゅうしながら、何とか1か月すごしたという印象です。そんな中で、レントハウスの陽気なおじさんが週に一度だけバーベキューをしてくれるんですが、その肉が楽しみでした。

一度だけ、ブラジル名物のシュラスコという肉料理を食べさせる店に行きました。串刺しになった肉を各テーブルに切って渡してくれるスタイルのレストランで、これはなかなかおいしい肉料理でした。

<チケットは会場で購入できた ブラジル人は高額で敬遠か>

リオ五輪は現地でチケットが手に入りました。会場のいたるところにあるチケット売り場で、行列はできていますが、購入でき、インターネット上からもクレジットで入手できました。

ブラジル人の収入からすると、チケット代はかなり高額になるので、現地の一般庶

民はほとんど購入できず、会場にも来ていない。一部の富裕層の人、ブラジルではビジネスの中心はリオデジャネイロではなく、サンパウロなので、サンパウロからのお金持ちが観戦に来ているということでした。地元のリオの人は(オリンピック会場には)あまり来ていなくて、その分チケットが結構余っていて、我々は現場で何度も買って、いろいろな競技場で観戦し、取材することができました。チケット代は、大体1万円前後が多いのですが、人気のある競技の中には2万円、2万5000円というようなチケットもありました。逆にビーチでの競技、例えばセーリングとかヨットといった競技では1500円位で一番安かったと思います。ただしほとんど見えなかったりするので、それなりに試合を楽しもうと思ったら、安くても4000円～5000円、1万円位のチケットを求める必要があります。

平均収入が4万円～5万円、最低賃金が月収3万円位のリオ市民からすると、オリンピックのチケットは手の届かないものということになります。私たちには関係ないよと言っている人がかなり多かったですね。

<周辺取材が原則の大阪局「ちちんぷいぷい」取材班にジレンマ>

大阪のテレビ局として我々は(「ちちんぷいぷい」の“売り”にしているということではないのですが)、こういうオリンピック取材などでは、原則、いわゆる「周辺取材」を中心に行ってきました。東京のキー局のように取材パスをしっかりと手に入れたり、予算も豊富にというわけにはいかないのです。今回は取材パスもなかったのでメディアセンターにも入ることができませんでした。また、オリンピックパークに入るときには、一般のお客さんと同じようにそれぞれの競技のチケットを購入し会場に入り、取材していました。その分東京のキー局がやらない周辺取材を中心に企画を立て、取材し放送していました。これまでのオリンピック取材でも周辺取材が中心でした。

【注】 競技の生中継、競技の結果、メダリストのインタビューなどはNHKと民放キー局で構成するジャパン・コンソーシアム (JC) が制作。

ところが今回の「リオ五輪」では当日でもチケットが購入でき、競技をしている会場に入ることができたのです。我々にとってはこのチケットが手に入ったということが、取材班のジレンマにつながっていきました。

【ジレンマその一】

これまでのオリンピックでは、取材パスも手に入らないし、チケットも簡単には購入できない、それならと割り切ったうえで、周辺取材を中心にしようじゃないか。東京のキー局は競技の生中継、試合結果、選手のインタビューなどオリンピック競技を中心に制作するから、我々はキー局がやらない、オリンピックとは関係ないか

もしれないが、実は今リオがこんなことになっている。リオの名物やブラジルの文化を紹介するなど、周辺取材をするというのが今までのスタイルでした。ただ今回はチケットが入手でき、しかも手の届かない額ではない。

(写真 男子ラグビー3位決定戦)

急きょ現地でチケットを買って競技場にかけて男子ラグビー3位決定戦で、準決勝まで進んだ日本チームの3位銅メダルなるかどうかという南アフリカとの大事な試合でした。結果、負けてしまったのですが、このように写真を撮って見ました。

これがジレンマでなんです。日本国内はメダルラッシュに沸いている。そのすぐ近くにいる我々は、チケットも手に入るのだから、メダルを取る瞬間をキャッチしたリアルなレポートをやるべきじゃないか。一方、いやそれは東京のキー局が、朝からワイドショーやニュースを含めてずっと放送し続けるんだから、午後2時からの「ちんぷいぷい」ではそれを見送って、周辺取材中心の企画か、もしくは東京キー局がやらないマイナー競技中心でいいんじゃないかという意見もありました。私はどちらかという、その後者の考え方なんです。日本はメダルラッシュ、せっかく、山中(アナ)たちが行っているんだしたら、それを見たいよという声も聞こえました。これは大分悩ましかったですね。日々、悩みながら、今日どっちへ行く、どの取材をする、今日は何を見る。日によっては2チーム取材に出る。廣田遥ちゃんと遠山奨志さんはレスリングの試合(この日、日本は一日で3個の金メダルを取る)を見に行き、私(山中)は別の取材に行く。そして結局、私が取材したものは全部カットされたりするわけです。これはディレクターなり、プロデューサーなりの判断なんです。ここにジレンマがありましたね。答えは人それぞれで、一つではないと思います。見ている人はどうだったのかなというところもありました。4年後の東京オリンピックでは、皆、全国からオリンピックを見るために東京にかけつけるので、関西の我々がやることはやっぱり、周辺取材になるのかなと思っています。

<銅メダルの日本人選手より対戦相手の日系ブラジル人に焦点当てる～男子柔道～>

リオ滞在中は、単に競技中心の取材、メダルに輝いたところだけを取材するのではなく、周辺取材だけに終わらない、何か対象になるものはないか、日々考えながら競技場を駆けまわっていました。

女子バレーボールの会場にも行きました。バレーボールはどちらかといえば関心の高い種目でしたが、今回日本チームは残念ながらいい成績ではなかった(準々決勝で敗退、5位)、我々もそんなに分厚くお伝えすることができませんでした。

卓球はもともと取材を予定していなかったのですが、あれだけメダルラッシュに

なったということで、私も2度見に行きました。

(写真 “大勢の取材陣に囲まれた柔道選手の家族”をちょっと引いたアングルで)
これは柔道の試合のときの写真なのですが、中心にハンカチを持って泣いている選手の奥さん、周りにカメラを持った報道陣が取り囲む。そこに我々もすぐ近くにおいて、試合が終わったら奥さんに話を聞きにいこうとするわけですが、これはご両親の囲み取材です、私がこんな写真(報道陣を入れ込んだちょっと俯瞰)を客観的に撮っているくらいで、どこかで疑問を感じるわけです。自分も一緒に取材すべきなのかと。いやこれは東京のキー局がやってくれるわけだし、これを必死に取材して「ちちんぷいぷい」でお伝えすべきなのか、(選手の家族の囲み取材を目の前に)いろいろ自分で悩みながらやっていました。

(次の写真 柔道会場の観客席にいる TOKIO のメンバー)

この写真、TOKIO のメンバーなのですが、多分、東京のテレビ局の取材で来ているんでしょう。キー局から依頼されたタレントや、アナウンサーが大勢会場に来ています。そういう現場に居れば居るほど、僕はここで取材しているべきではないなと思いつつ、一緒に応援していました。

そこで同じ柔道会場に居ながら、違うことができないかと考えたんです。

これは男子柔道・海老沼匡選手(66キロ級、銅メダル)の試合なのですが、対戦相手が日系ブラジル人で、この日系ブラジル人のお父さんをたまたま私が知っていたんです。というのも2014年(今から2年前)、ブラジルでワールドカップ(サッカー)が開かれたときにも、彼を取材しているんです。その息子さんが柔道をしていて、しかもブラジルで一番の実力者だということを聞いていたので、2年経ってから確かめたところ、リオ五輪に出場することが分かりました。あのとき、ワールドカップで取材させてもらった毎日放送のものですが、“覚えてますか”とお父さんのところへ取材に行きました。そういう2年前からのアプローチがあって、日本人の海老沼選手が中心ではなく、対戦相手の日系ブラジル人の選手にスポットを当て、「ちちんぷいぷい」独自のオリンピック企画としてVTRにまとめ放送しました(独自性のある周辺取材)。

このほか、女子バスケットは日本があまり活躍しなかったのが基本的には東京キー局では扱われることはありませんでした。何とか「ちちんぷいぷい」で放送したいなど、私は2度見に行き、写真も撮ってきました。結果メダルラッシュのVTRで、カットされてしまいました。女子ホッケーの選手も、リオに入る前に事前に取材していましたが、世界を相手に苦戦をしていたということで、折角の独自取材も日の目を見ることはありませんでした。

私がどうしても放送してほしいと言っていたのがセーリングです。

周辺取材を加えると面白いと提案し取材しました。セーリング会場は単なるビーチのようで、(写真でもご覧のように)こうしてビーチで観戦するという見方も面白

いんですが、観戦していても全く見えないんです。海の向こうのほうでヨットが動いているのが、結局見えないので、大画面に映し出されるのですが、映し出されても小さかったりして、しっかり応援が出来ない。また観客にはござとパラソルが配られて、それで観戦と、日本では普段あまり見ることのない競技なのでオリンピックの観戦の仕方といった面から見ても面白かったですね。応援してもその声援はヨットまで届かない。面白いというのは変かもしれませんが、初めての体験だったので、これはぜひ日本の皆さんにお伝えしようと、ほかのメディアも来ていなかったで、放送するよう本社のデスクに売り込みました。これは放送してくれました。

<女子マラソン・福士選手が投げしてくれた“帽子とサングラス”を見事キャッチ>

それにもう一つ、女子マラソンの取材中にラッキーなことが一つありました。マラソンはコースが公道なので、チケットを買わずにいろんなところを動いて取材することができました。従ってリポーター3人があらかじめ取材するポイントを決め、42.195^キを分かれてカバーしていきました。

私に関しては自転車を借りて、自転車で移動しながら、ポイント、ポイントを先回りして何度も日本選手に応援できるようにしてレポートしていました。そうしましたら、テレビでも放送したんですが、福士加代子選手がゴールインのときに42キロずっとかぶっていた帽子とサングラスをぱっと取って、投げたんですね。それを偶然にも私がキャッチするというラッキーがありました。

私は何度もいろんなポイントで応援していたのと、そして事前に福士さんにはインタビューしていたのと、さらに“学ラン”という目立つ格好をして応援していたこともあって、気づいてくれたんでしょうね。

まあ、しゃあないという感じで投げってくれたんだと思います。しっかりキャッチしまして、これはすごくラッキーでした。当然「ちちんぷいぷい」のオリジナルの素材として放送することができました。

ただ後で、人づてに聞いたんですが、ご本人は、本当は帽子だけを投げたつもりだったらしく、サングラスも一緒に付いていっちゃった、返してと言っていたそうです。多分そのうちお会いして、そのときに返すことになるのか、いやいや記念にくださいとお願いするのか。とにかくこういうラッキーなこともありました。

この写真にも写っていますが、事前にリオでたまたま僕らが取材をしていたら、そこを走っている福士選手と会っているということもあって、伏線があって投げってくれたのかなと思っています。

<“飛び込み”に心動かされる 女子高校生の選手に密着>

いろいろ取材した競技の中でも、私は飛び込み競技に一番心を動かされました。

宝塚(兵庫県)に高飛び込みの選手(女子高校生)がいると聞き、日本を出発する前に事前取材をしました。リオ五輪では活躍し8位に入賞しています。成績とは別に飛び込みという採点競技で、素人には分かりにくいと思っていたんですが、実際に競技を見ると、とても分かりやすく、ルールも複雑そうなんですが、一回聞くと理解できて、すっかりはまってしまいました。

飛び込みの魅力は飛び込んで着水する瞬間の爽快感、それに何よりもダイナミックさもあり、とても良かったですね。この高飛び込みを追ったルポは「ちちんぷいぷい」の兄弟番組「せやねん！」(土)という番組でたっぷりと放送しました。

オリンピックのときにいろいろな選手と情報収集のため、メール交換したりします。私はセーリングの選手や飛び込みの選手と、ちょっとメール友だちになって情報交換していたんですが、オリンピックが終わったとたん、大体ピタッと連絡しなくなるのですよ。これには違和感があって、とくに相手が高校生だったり、20歳ぐらいの若い子だったりすると、オリンピックという注目の舞台にだけ(取材に)来て、終わったとたんにパッといなくなる大人たちはどう見られているかなと思うと、私は少なくとも、そういうことはやめておこうと、何人か仲良くなった選手とはオリンピック後もメールのやり取りをしています。

飛び込みに関しては本当に感激したということもあって、先日(9月17日)東京での日本選手権を、個人的に見に行ってきました。その大会では高飛び込みで、オリンピックに出場した宝塚の女子高校生が優勝しました。4年後の東京オリンピックを目指して頑張ってもらいたいと思います。

今回はメダルラッシュだったので、卓球、レスリングなどの現場にも行って取材し、それらの競技も「ちちんぷいぷい」で放送することが多かったですね。

次の東京オリンピックでは、どのようなスタンスで取材するか、しっかり検証する必要があると私は個人的に思っています。

<こんな周辺取材も“アマゾンの大魚を養殖 刺身に”“観光用ファベラ”>

(写真 お皿に盛られた刺身のような料理)

これはお刺身なんですけど、ブラジルにはピラルクー(Pirarucu)という大きな魚がアマゾン川流域に分布しています。ぱっと見からしても食べられそうなものではないんですが、アマゾン川流域の住民はいろいろ焼いたり、フライにしたりして食べています。

【注】世界最大級の淡水魚 全長約5m 体重200kg 現地では重要な食用魚
(「日本語大辞典、講談社」)

これが食料として食べられたら意味があるぞと目を付けた日本人がサンパウロにいて、その人をオリンピック関連の周辺取材として取り上げました。今この日本人は、刺身にしても食べられるようにピラルクーを養殖し頑張っているんです。

このほか周辺取材として、観光用ファベエラのルポ、元野球選手の遠山さんが、サッカー大国ブラジルで野球を教えている日本人のところに行って、一日臨時コーチをしたり、開会式でサンバダンスを踊って話題になった日本人ダンサーを廣田遥さんがインタビュー取材したりしました。

私たちはオリンピック開催中、リオを中心に 24 日間滞在し、こういった周辺取材とオリンピック競技の中でもメダルラッシュに沸いた会場だけでなく、なじみのない競技にも目を向け、「ちちんぷいぷい」独特の切り口でリオデジャネイロに集う選手やその家族、そして観客のさまざまな表情を記録し日本に伝えてきました。

<リオのファベエラは 700 か所、一か所だけ“観光用”に開放>

リオデジャネイロはファベエラ(貧民街)が一番多い場所でした。現地で聞くと 700 か所位あるということです。そのうち警察官が立って警戒しているところはまだ 40 か所しかなく、ほとんどが手のつけられない無法地帯になっている。実はそのリオのファベエラの中で一か所だけ“観光用”に開放されていて、今回取材しました。前回ワールドカップのときにも取材していますので、何となくその雰囲気は私なりに感じとっていました。

ファベエラにある建物はレゴブロックのようにどんどん上に積み重なっていく。あとから積み増しているような建物で、山の斜面にひしめき合っているという感じ。もともと逃げてきた奴隷が、山あい隠れて住み始めたので、土地の権利とかは関係なく、勝手に住み始めたところというのが、ファベエラの定義のようです。今は土地の権利が少しずつ明文化し始めている場所があるようです。2 年前に見たファベエラは電柱に電線が絡み合うように、ぐちゃぐちゃになって、次から次に勝手に“盗電”して家に引き込んでいる状況でした。

しかし今回見た観光用ファベエラでは、我々はガス代も電気代もちゃんと払っているよと言っていたので、その辺が整備されているところも出てきたのかなと思います。この観光用ファベエラも、開放されているといっても夕方まで、夜は責任がもてないということでした。夜は入ってくるなよということで、やっぱり治安はよくないということですね。ただ昼間は、子供たちも普通に遊んでいますし、一般市民、おじいちゃん、おばあちゃんを含めて、普通に歩いていますので、パッと見は普通の貧しいエリアのようですが、現地の子供たちに将来もファベエラに住みたいですかと聞くと、みんなファベエラを出たい、“しょっちゅう銃撃戦があるからね”と話していたのが印象的でした。こんな小さな子供が言っているのを見るとどうにかしなければいけないんだなあと思いました。

目の前を、17, 8 歳ぐらいの少年 4 人組が通り過ぎて行ったんですが、手に黒い拳銃を持っていたので、コーディネーターにモデルガンに見えるけど、まさか本物じ

ゃないよねと聞いたら、本物の拳銃だよと言っていました。

私たちが借りていた家の近くがファベエラなんです。その日はサッカーのブラジル戦があって、ブラジルが勝った、坂の下のファベエラのほうからばんばん、ばんばんと爆竹の音が聞こえてくるんです。みんな爆竹で喜んでいる、中国みたいに爆竹文化があるのかなあと言ったら、あれはみんな拳銃だと言われました。やっぱりリオの治安は大分悪いんだというところがありますね。

<オリンピックパーク近くのファベエラ 500 世帯ほぼ撤去 一軒だけ立ち退き拒否>

もう一か所取材したファベエラがあります。オリンピックパーク、広大なエリアのすぐ横にファベエラがありました。そこは 500 世帯位住んでいたのですが、ほとんど立ち退きさせられ、今 20 世帯だけ残っているエリアです。しかもファベエラの建物はほぼ全部壊されていて、新しい真っ白な平屋建てが20軒建っていて、そこにみんな入居させられています。

オリンピックを開催するため、政府は海外から来るお客さんに“汚い建物は見せられない”とファベエラを撤去しようとしたが、一軒だけが断固反対し、あの積み増したような、ひょろっと高い建物が残り、今も人が住んでいるのです。

そこの住人は、お金をいっぱい出すと最終的に言われたが、奥さんが暴力をふるわれるなどあったので、お金をいくら積まれても立ち退きは拒否。そしてあそこにある立派な大木は「僕が小さいとき、おじいちゃんと一緒に植えた木で、僕と一緒にこんなに大きくなったんだよ」とおじいちゃんから聞いた話をしてくれた。「だから俺は、この地からは絶対離れない。これからも闘う」と話していました。そういうファベエラを見ると、オリンピックの光と影の部分があるのかなと感じましたね。そこは真っ白な建物が建っていて、外から見るときれいになっているが、そこに住んでいる人たちはこんな家には住みたくないと言っているんです。

【ジレンマ その二】

最初のほうで取材上のジレンマの話をしましたが、今回のオリンピック取材ではもう一つジレンマがありました。メダルラッシュ報道に沸く日本とファベエラなど複雑な事情をかかえる開催地リオデジャネイロ（との温度差）。

やっぱり日本の山中君と中継で呼びかけられたときには、日本では基本的にメダルラッシュの報道をしているわけですから「現地盛り上がってるね」とか「現地盛り上がってるでしょう」と呼ばれるわけですよ。

「オリンピックムードで現地は盛り上がってますよ」と僕も言いたくなるんですが、いやいやちょっと待てよ、今言ったようにファベエラの立ち退きだけじゃなくて、先ほども言いましたが、現地の人、地元の人ほとんど観戦に行っていないんですよ。また（オリンピックに対して）かなり多くの反対の声が聞かれるわけ

です。このオリンピックは誰のためなんだ、ほんの一部の金持ちのためじゃないか、俺ら地元には何も還元されていないぞ。景気はどうですかと聞いても全然よくない（と返ってくる）。

そんな話を聞くと、決して「現地は盛り上がっていますよ」という常套句だけは言わないようにしようと。ただ現地のリアルな声を伝えると、何かメダルラッシュに水をさすことになるんじゃないかということが、ジレンマとしてあり、「いやメダルは取っていますが、現地は全然盛り上がっていないんですよ」というのも言いにくいし。かといって「盛り上がっているよ」というのは嘘だし。

「リアル世界くん」というコーナーを普段やっているのですが、リアルな声というところに結構執着しているはずなのに、どこまでリアルな声を伝えて、水をささない何か表現の仕方はないものかなとずいぶん思い悩んだことがありました。

最後にまとめというほどのまとめではないのですが、初めてオリンピック取材をして感じたことは、オリンピックというのは我々メディアとそして選手と観客がとても近くにいられる場所なんだなあとということです。

（写真 女子バスケット選手とカメラに収まる山中リポーター）

選手にちょっと写真を撮らせてくださいと頼むと、僕がメディアの人間と分かっていないと思うのですが、いいですよと言って撮らせてくれたり、我々が観客席にいる人たちと一緒に応援したり、この一体感というのは普段なかなか味わえない、いいものだと感じました。

もう一つは大先輩の前でこんなことを言うのはなんですが、オリンピックというのは（競技の）結果だけに目をつけがちです。我々も限られた放送時間の中で、結果から逆算して伝えられる範囲のものを伝えているんですが、やっぱり結果だけじゃない、ストーリーがそれぞれの人にあるんです。

事前取材をして縁ができたボクシングの選手は、まだ20歳の大学生（大阪・枚方出身）ですが、一回戦で負けてしまったんです。すると、メディアはどれも取り上げないし、我々も取り上げると本人がかわいそう、傷つけることになるで紹介しない、それはそれでいいのですが、話を聞くと、すごくいろいろなものをしよって、もちろん血のにじむような練習、ご家族の期待とか、いろいろなストーリーがあるわけです。

「ちちんぷいぷい」には、毎日4時間、週5日間、一週20時間という面積（放送時間）があります。オリンピック期間中は無理でも、前後とか終わって、落ちついてからでも、（競技の）結果だけではない、人物のストーリーに視点をおいたもの（企画）を伝える場所がないかなと思いながら見ていました。例えばセーリングの選手もお金が全然集まらないので、ご両親が500万円位持ち出してオリンピックに出場したと聞くと、それこそテレビなどメディアで何かすることがあるのではないかと思います。

視聴者の皆さんが見たいものをお見せするというのも、もちろん我々の役割の一つですが、我々が見せたい、見てほしい、そして放送した、その結果、面白い、意味があったと思ってもらうというのもありなので、これからもメダルだけではない、選手をもっと人間としての内面から描いたオリンピック企画を打ち出していきたい。

2020年の東京オリンピックのとき、私は43歳なので、まだ現役記者としてもっといろいろな企画を提案し、挑戦していきたいと思っています。

今日はお話を聞いていただいて、ありがとうございました。一方的にマシンガンのようにしゃべり続けました。すみませんでした。

(質疑に入る)

司会 たくましく取材されていて、私は(対象を)見る目が温かいなと感じました。

出席者 技術出身だけれど、今ビデオで取材した映像を日本へどのようにして送出しているんですか。

山中氏 今は携帯電話でもインターネットが見られますが、このインターネット回線を使います。現地の携帯電話会社が売っている小さな装置モデム (Modem) をパソコンに差し込んで、一つ差すより、二つ、三つ差したほうがスピードが速くなって、多くの容量の素材 (映像、音声) を送ることができる。5, 6年前に始めたときは、モデムを一つ差し込んでいただけでしたが、今は三つ位差し込んで、パソコンで編集したものをぎゅっと圧縮(データファイルを小さくして)し、それをインターネット回線で日本へ送っています。普段からそういう方法で送っています。カメラで撮っているものも、一応小さいテープも回っているんですが、テープだけでなく、カードにも同時にデータ (映像、音声) を記録していく。テープからデータをパソコンに取り込もうとすると、60分テープだと、やはり60分かかるんです。だけど、カードだと、60分データを2分から3分でパソコンに取り込めるのです。スピード化しているので、カードから直接パソコンに取り込んで、編集して、圧縮して、インターネット回線で送る。実はこの作業は屋内 (家) に居なくても、外 (取材現場) からでも送ったりすることができます。そして生中継もこの方式で可能です。生中継もモデムを差し込んで、インターネット回線で中継していました。

司会 というお答えでしたが、想像できましたか。カードというのはいわゆる写真に使っているSDメモリーカードのことですか。

山中氏 SD カードと同じようなものです。

司会 SD カードと同じようなものを使って、それに取材した映像と音声を取り込んで送り込む。それで今生中継と同じようにそのまま映像素材を送り込む方法もありますが、うんと（映像素材を）圧縮して、いわゆるファイルみたいな格好にして送るという方法もあります。（映像送出などの技術面では）想像できないくらい様変わりしております。

出席者 ジレンマの件ですが、後半のジレンマ、現場とスタジオのズレというのも痛いほど分かるんですよ。

今回、周辺取材というのを一つのテーマとして行かれたのだから、絶対的にそちらをやるほうがいいのではないかな。我々ローカル局はオリンピックの競技の中継はできないですからね。

（民放のオリンピック中継）例えば柔道の試合の場合、試合自体の中継よりお父さんとお母さんが昨年亡くなったとか、話がそっちへ行っちゃうでしょう。それは（試合が終わってから）後でゆっくりやればいい。こちらは試合を見たいんですよ。エンターテインメントなので、そちらのほうを楽しく見せてほしいんです。4連覇がかかるレスリング女子 53^キ級の決勝戦・吉田佐保里選手の中継放送をご覧になりましたか。実況は日本テレビのアナウンサー。

山中氏 いろいろあって話題になった放送ですね。

出席者 あれ、どう思いますか。

【注】実況していたアナウンサーが吉田沙保里選手の父親(2014年他界)のことを話題にし過ぎ、“感動”の押し売りとして、ネット上で批判が相次いだ。

山中氏 私はスポーツ実況をやっていないので分からないんですが、個人的には必要（父親とのエピソード）ないと思っています。

出席者 試合の実況中に、選手の家族などを追った“ストーリー”が多すぎるんですよ。日本の放送は特にそうですね。東京オリンピックのときは出来れば、（リオ五輪で経験された）今のジレンマを大事にさせていただいて、割り切ってやってもらえると、とっても楽しく見られると思います。

山中氏 ありがとうございます。私もどちらかと言えば、そう思っています。この場

で先輩にそう言っていただいたということをプロデューサーに伝えます。

出席者 もう一つ、ズレでとても気になるのは、アナログのとき以上にデジタルに移行してから中継現場(リオ)とスタジオ(日本)とのズレが激しいでしょう。

(時間差、タイムラグ、特に音声のズレ)

今回も山中アナウンサーの中継を見たんですが、遠山さんとスタジオにいる八木さん(元阪神タイガース選手)とのやり取り、八木さんは遠山さんがしゃべっている途中で、ガンガン声をかけ割り込もうとする、ところが全部素通りして会話が成立していない。あれを見ているとイライラする。特に衛星中継の際、そういうズレが生じるという説明が出演者になされているのか。どう思われますか。

山中氏 タイムラグに関しては、先ほども触れたインターネット回線のスピードによるものようで、インターネット環境がよければタイムラグは少なくなるようです。発展途上国でインターネット環境が悪ければ、悪いほど、タイムラグが大きくなる。もう一つあって、中継映像の画質を落とせば(悪くすれば)、タイムラグは小さくできるんです。画質をよくしようとすると、タイムラグができてしまう。データ量を音声に分配するのか、映像に分配するのか。これをコントロールしている技術スタッフはどちらかといえば、映像を重視する方が多くて、映像をある程度きれいに見せようとする、音声はどうしても優先順位が下がって、タイムラグができてしまう。スタッフはタイムラグを少なくするよういろいろ調整してくれたのですが、それでもタイムラグは出ますね。我々アナウンサーは日々「リアル世界くん」で中継をやっている、少しでもタイムラグに対応しようと、ちょっと早くしゃべり始めようとか、(掛け合いの音声)重なってしまっているときには、黙るとかいろいろそれなりに工夫しているつもりなんです。今回、遠山さんも、廣田遥さんも、タレントさん、そしてアスリートということで、そういう方にそれを求めるのもなかなか難しくってディレクターもこうして下さいと言いくかかったんですかね。

出席者 私も制作出身なんですが、なぜそれが言いにくいんですか。それを言っておかないと視聴者は見てくれないと思いますよ。

山中氏 そうですね

出席者 あのズレはとても気になりました。技術的なズレは見ていて何とも思わないんですが。すみません。批判ばかりしちゃって。

山中氏 批判していただいたほうが勉強になりますので。

司会 私も気になるのですが、(現場とスタジオとのクロストークについて)どっちが気を付けるべきかと思うんです。スタジオのほうが、呼びかけるほうがもっと我慢して、待つということのほうがやりとりがスムーズに行くのかなと思います。

山中氏 そこも少し悩ましいのは、山中君と振られて一方的にある程度しゃべる、そしたら掛け合いがないのでストレスは感じさせずにすむ。ただ「リアル世界くん」では生中継にこだわって放送しているわけですね。リオデジャネイロでは(時差の関係で)夜中の3時、4時に起きてやっているわけです。一方的にしゃべるだけだったら、極端な話、生にこだわらず、収録してあるVTRで放送してもいいわけですね。あくまでも掛け合いをして応えとか、何かそこでのやりとりで、面白くしたいなと思うので、掛け合いにこだわる、ただ掛け合いをすると(音声のズレが生じ)ちぐはぐになる、悩ましいですね。何とか上手くできないかというのを考えています。

出席者 アナウンサーの耳の良さと感覚の良さが、あのズレのところですごく差が出るんです。聞こえていて後からそれを何とかなぞって応えられる人と全く素通りの人、途中でやめてスタジオをメインに立ち上げるという人、どれが正しいかはあなたがおっしゃった通り現場だと思います。

山中氏 頑張ります。

出席者 今、言われましたが遠山さんの野球(教室)はむちゃくちゃ面白かった。遠山さんは本当に味わいのあるレポートをしていた。私は大好きなんです。また、廣田遙ちゃんもほかのときもそうだったが、リオでもいい味を出していたと思います。学ラン姿で3人が応援するというのも、すごく面白かった。私は家にいるとき、できるだけ「ちちんぷいぷい」の「リアル世界くん」を見ていました。要するにキー局は同じことを何回もやっている。大阪の民放のオリンピック企画は独自性があって面白い。どのような切り口で取材をしているか、ずっと見ていたんだが、折角、あのタイトル(「リアル世界くん」)を付けておられるんだから、当初の企画意図を徹底すべきだと思います。なんで、ここで妥協するのか。

山中さんはフルマラソンを走って3時間を切られているんですね。インド取材ではガンジスの水に浸かって大変な目に遭って、とにかく活動的だなと思った。同じことを東京オリンピックでやられるとしたら、ほかの局は山中アナウンサー

のような味が出せないと思うので、局全体の姿勢として個性を出していくべきだと思う。視聴率が上がらないとメシが食えないということは、営業出身なので、いやというほど分かっているんですが、視聴率が上がろうと、上がるまいと、それを捨ててでも局の独自性を貫くべきでしょう。

今、民放はどの局も同じことをやっているみんな感じているはずなんです。現場も分かっているながら、OB・OGも分かっているながら、みんなそこから脱却できないということを痛切に感じている。

私は4年後の東京オリンピックのとき、「ちちんぷいぷい」がそのままあるとして、同じ方式を取るとすれば、私が生きているかどうか分かりませんが、楽しみに見たいと思います。

山中氏 ありがとうございます。

司会 ちゃんと見てくださっている方がいると局に帰って報告しておいてください。

山中氏 上の人間をここに連れて来たかったくらいです。

司会 リポーターの“学ラン”姿（応援するときのコスチューム）というのは現地ではどんな受けとめ方でしたか。

山中氏 結構、コスプレで来ている人が多いので、そんなにむちゃくちゃ目立ったということはありません。

忍者とサムライは知っているけれど、これは何のスタイルだ？ これも「ジャパニーズ トラディショナルスタイル」だと、そういう風に言っていたんです。

これは知らないぞということで注目されました。リオに行く前は、イスラム国関係者と間違えられるのではないかと不安に思っていたんですが“学ラン”が黒ということで、それもなく結構、面白がってくれました。あと会場で“フレイフレー”と大きな声で応援していることがあって、半分、白い目で見られるので、あの格好で許されるということもあった。ああいう演出をしてくれたディレクターには感謝していますね。

司会 いままで、いろいろな国で、たくさん取材をしておられます。それらと比べて今回のリオ・オリンピックの取材は何が、どんなところが違いましたか。

山中氏 大阪府の橋下知事が就任してからすぐに“追っかけ取材”をしてきました。それも「ちちんぷいぷい」の“政治担当”の取材で、本物の政治記者ではないという

ところを遊びにして、周辺取材をしていたんですね。

普段もずっとそういうことをしていたので、あくまで“中心”じゃない“周辺”をどう攻めるかという取材をしていることが多かったのですが、それと比較すると、今回のリオ取材は本当に“ど真ん中”に行くことが多かったというのが特徴でした。やっぱりディレクターも、私も、メダルを取る瞬間を見たいという気持ちがありました。それに放送する意義もある。そしてチケットが手に入るから行ってしまおうというものもあるんですが。

今日皆さんのお話を聞いて分かったのですが、もっと周辺取材を中心にすべきだったかな、普段やっていることの強みをやっぱり生かすべきだったかなと改めて再確認しています。あと普段していることとの違いで言うと、リポーターが3人いる、そのことによって、それぞれが分かれて取材すると素材が多すぎるんですね。ところが「リアル世界くん」というコーナーだけでは放送する時間がそんなにないんです。

いつも一人で取材に行くと本当に朝から晩まで、寝る時間もないくらいなんです。その点今回はリポーターが3人でしたので、ちょっとだけ余裕がありました。ただ私以外の二人はギャラが必要ですし、ほかにボディガード代とかで、莫大な制作費がかかりました。だから下半期の「ちちんぷいぷい」はかなり節約した番組作りになるんだと思います。

司会 実には山中さんはインドが大変お好きで、何回も行っていらっしゃる。さてブラジルという国は「ちちんぷいぷい」の“政治部キャップ”という異名をもっている立場からすれば、もう一回取材してみたい国なんじゃないでしょうか。

山中氏 2年前、ワールドカップのときに取材してからこのオリンピックまでに、私はすごく発展したり、成長したりしていると思っていました。ワールドカップが来るぞ、2年後にはオリンピックもあるぞ、今はイケイケ、ドンドンで国が成長していくときだ。リオ・オリンピックに向かってどんどん成長しているんだろうなと思っていたら、2年前とさほど変わっていないどころか、何か景気が悪くなった話ばかり聞こえてきまして、そこにはいろいろな理由があるようですが、唯一の要因は原油安が打撃になっているということでした。

もう一つは汚職。大統領が罷免されているように政治的な汚職で国の経済が悪くなっているようです。

ブリックス（BRICs）レポートで経済成長国としてあげられたブラジルが、オリンピック開催の年にすでにこんなに疲れているんだなと思ったときに、もう一度行きたいかというご質問に対して、数年後には行って見たいと思います。

【注】 BRIC s リポート

先進国を上回るペースで経済成長すると期待される国
ブラジル (B) ,ロシア (R) ,インド (I) ,中国 (C) の頭文字をとった
造語。2003 年アメリカの証券会社が投資家向けに出したリポート。

あれだけの国土を持ち、人がいて、今がピークで落ちて行ってしまうのか、何か、
第二エンジンというのか、工夫して世界にブラジルありと躍進して行けるのか、そ
のとき日系人というのがポイントになる、日系人はブラジルでご活躍のような
ので、その日系人を含めてどう国を立て直すのか、「ブラジルのこれから」にちょっ
と興味がありますね。

司会 本日は、オリンピックの競技とは別の違った側面、そして生々しいお話、体験に基
づいたたくさんエピソードを聞かせていただきました。非常に有意義なお話を
伺いました。山中真さんにもう一度大きな拍手を差し上げたいと思います。
(拍手)

山中氏 ありがとうございます。

**「リオデジャネイロ・オリンピック」関連資料は
次ページ (24 p) 以降にまとめている。**

「リオ・オリンピック」は 8 月 6 日～22 日 (日本時間) まで開催。
南米大陸での開催は夏季、冬季通じて史上初めて。
206 か国・地域から 1 万 1000 人の選手が参加し、28 競技 306 種目で争われた。
日本選手のメダル獲得数は金 12 銀 8 銅 21 計 41 個。
前回ロンドン大会を上回り過去最多。

- ★NHK の放送計画では、地上波は総合テレビで生中継と録画を
合わせ約 240 時間。
衛星の総放送時間は約 360 時間。全 28 競技を必ず何らかの形で
放送するという (BS1)。
- ★民放・地上波は生中継を中心に総放送時間 240 時間
これは過去最大規模の放送となる。
リオデジャネイロと日本の時差は 12 時間、地上波は 19 時から翌朝 4 時まで
連続 9 時間の放送枠を設定しているケースもある。

以下、NHKと民間放送5局の生中継を中心にした放送日程

NHK・地上波の放送日程

8月6日 土曜日

開会式中継 07:30~08:55
五輪デイリーハイライト 19:30~20:45
体操・男子予選中継ほか 21:55~翌05:00

8月7日 日曜日

重量挙げ女子48kg級ほか 07:45~12:00
ハイライト 19:30~20:00
フェンシングほか 21:55~翌06:00

8月8日~12日(月曜日~金曜日)

8月15日~19日(月曜日~金曜日)

メダリストインタビュー 08:15~12:00
ハイライト 18:00~18:45
ハイライト 19:30~20:50
生中継・録画 22:00~翌06:00

8月20日 土曜日

メダリストインタビュー 08:15~12:00
ハイライト 18:00~18:45
ハイライト 19:30~20:45
生中継・録画 22:00~翌06:00

8月21日 日曜日

メダリストインタビュー 07:45~09:00
生中継・録画 10:05~12:00
ハイライト 18:00~18:45
ハイライト 19:30~20:00
男子マラソン生中継 21:00~23:00
生中継・録画 23:05~翌06:00

8月22日 月曜日

閉会式 08:15~12:00
リオ五輪総集編 19:30~20:45

五輪放送の“定時制”重視

土曜と日曜、月曜~金曜の
編成を固定化。

ニュース、情報番組など
レギュラー番組の中でも
五輪関連の情報を放送。

CMの入らないNHKの五輪
放送は視聴率ランキングでも
上位を占めた。

キャスターは現地、スタジオ
すべてNHKアナウンサー

民放・地上波の放送日程

MBS(TBS系)

メインキャスター 中居正弘

スペシャルキャスター 高橋尚子

◎8/7(日) 14:00~15:54

ウィークリーハイライト

◎8/9(火)02:40~06:30

柔道決勝

◎8/11(木)06:45~09:00

サッカー男子予選

日本 vs スウェーデン

8/11 20:00~24:00

卓球準決勝・男子シングル

◎8/12(金)09~12:00

水泳決勝・男子背泳ぎほか

◎8/13(土) 07:00~11:40

陸上予選・女子 1500m ほか

◎8/14(日) 19:00~21:00

ゴルフ男子最終日

21:30~24:15

マラソン女子 (視聴率 19.7 関西地区で2位)

8/15 24:15~04:00

男子ゴルフ最終日

◎8/16(火)20:30~24:40

陸上予選男子 200m ほか

01:50~03:40

シンクロ デュエット

◎8/20(土)19:00~03:30

女子ゴルフ最終日

◎8/21(日)07:30~11:30

陸上決勝男子 1600m リレーほか

◎8/22(月)02:00~04:00

ボクシング決勝男子ほか

ABC (テレビ朝日系)

メインキャスター 松岡修造

スペシャルキャスター 福山雅治

◎8/5(金)開会前日 20:00~21:54

開幕直前特番

◎8/6(土)11:30~14:00

開会式ハイライト

21:15~23:15

バレーボール女子・日本 vs 韓国 (視聴率 14.2 関西地区で13位)

◎8/7(日)20:58~翌 03:35

柔道予選、水泳予選 200m 自由形ほか

◎8/8(月)03:35~06:00

重量挙げ決勝女子

◎8/9(火)21:00~翌 01:00

柔道予選男子

◎8/10(水)09:00~12:15

水泳決勝男子 200m バタフライほか

◎8/11(木)24:55~04:00

水泳予選男子バタフライほか

◎8/17(水)19:00~翌 04:00

ゴルフ女子1日目ほか

◎8/20(土)12:00~14:00

ウィークリーハイライト

◎8/21(日)23:00~24:45

新体操決勝団体

◎8/22(月)12:00~14:00

閉会式ハイライト

KTV (フジテレビ系)

◎8/6(土)21:10~翌 3 : 30

柔道、水泳予選男子ほか

◎8/7(日)03:30~06:30

柔道決勝

◎8/8(月)09:40~12:10

サッカー男子予選

日本 vs コロンビア

◎8/10(水)03:55~06:00

卓球準々決勝・男子シングル

08:30~10:30

卓球準々決勝・男子シングル

◎8/11(木)03:00~07:00

体操決勝・男子個人総合

◎8/13(土)15:00~17:00

ウィークリーハイライト

◎8/14(日)07:00~11:15

陸上準決勝・女子 100m ほか

◎8/15(月)07:15~10:30

陸上決勝・男子 100m ほか

◎8/19(金)19:00~翌 04 : 00

ゴルフ女子 3 日目、

バドミントン決勝

男子シングルス

女子シングルスほか

◎8/21(日)20:30~23:15

レスリングフリースタイル予選・男子

◎8/22(月)19:00~21:45

リオ五輪総集編 (視聴率 10.5 関西地区)

キャスター 高橋大輔

キャスター 野村忠宏

キャスター 小谷実可子

YTV(日本テレビ系)

メインキャスター 櫻井 翔
キャプテン 明石家さんま

◎8/8(月)21:00~翌 01:54

卓球予選・男子シングルス

◎8/9(火)09:00~11:55

水泳決勝・男子 200m 自由形ほか

◎8/11(木)09:00~14:25

水泳決勝・男子平泳ぎほか

体操個人ダイジェスト

デイリーハイライト

◎8/13(土)08:00~10:25

バレーボール女子 日本 vs ロシア

19:00~翌 04:00

ゴルフ男子 3 日目

陸上予選・男子 100m ほか

◎8/15(月)19:56~翌 03:20

バドミントン

準々決勝男子ダブルス

予選男子シングルス

陸上決勝男子 3000m 障害ほか

体操決勝・男子つり輪

跳馬女子平均台

◎8/18(木)00:45~3:00

サッカー男子準決勝

21:00~翌 24:54

レスリングフリースタイル予選女子 53^キ級 (視聴率 16.2 関西地区で 11 位)

◎8/19(金)03:30~11:05

レスリングフリースタイル決勝女子

(53kg,63kg,75kg 級)

テコンドー女子決勝ほか

テレビ大阪(テレビ東京系)

◎8/10(水)21:00~24:00

卓球準決勝・女子シングルス

◎8/12(金)21:00~翌 4:10

柔道予選・男子 100kg 超級ほか

陸上男子 20km 競歩

◎8/15(月)08:00~10:15

バレーボール女子

日本 vs アルゼンチン

◎8/16(火)07:15~10:30

卓球準決勝・男子団体

◎8/17(水)07:15~11:00

陸上決勝・男子棒高跳びほか

◎8/18(木)05:45~11:13

陸上決勝・女子 200m

陸上準決勝・男子 200mほか

メインキャスター 小泉孝太郎

キャスター 織田信成

キャスター 昭英

五輪放送への論評

▼藤島大氏（スポーツライター）は「民間放送」（2016年9月3日付）で民放の五輪報道の課題について指摘している

「テレビ朝日の開会式の実況、吉野真治アナウンサーのスポーツ全般への知識と愛情がよく伝わり、ここはフェアな批評として、NHKのそれよりも内容は濃かった。しかし他方で「スペシャルキャスター」なる名称の芸能人が放送席にいて、これも正直に述べるならスポーツそのものの密度を薄めてしまう。現場の放送人ひとりずつの誠実な取り組みと慣習に流れる番組づくりの乖離。東京五輪に向けての課題だと思う」

▼谷口源太郎氏（スポーツジャーナリスト）は「放送レポート」（2016年11月11日）の「マスコミとスポーツ」の冒頭で「リオデジャネイロ・オリンピックを巡る日本のテレビ・新聞の報道は、日本選手の獲得メダル数を強調する「メダルラッシュ」による盛り上げ一本槍の印象が強かった」と記している。

▼日本文学研究者ドナルド・キーン氏も東京新聞の「ドナルド・キーンの下町日記」（2016年9月4日付）で横並び報道を批判している。

「連日、ほとんどの新聞は一面から社会面まで、日本人の活躍で埋め尽くされた。どれもこれも同じような写真が並んだ。どのテレビ局も似たような映像で伝えるのは、日本人の活躍だった。まるで全体主義国家にいるようだった。」

▼「メディアウオッチング」では、前回2012年のロンドンオリンピックの五輪報道について総括しているが、その当時、共同通信社社友であった藤田博司さんが次のような意見を寄せている。（「メディアウオッチング」議事録、2012年9月10日）

「とにかくテレビ中継のアナウンサーがはしゃぎまわって、メダルラッシュにひとりで勝手に酔いしれていた。それで入賞した選手には“今の気持ちは”なんていう愚にも付かない質問を繰り返して、答える選手の側は“支援してくれた人に感謝 - - -” そういうお決まりの感想を引き出して満足している。どうしようもない放送が毎日続いてもううんざりした。オリンピック報道がすべてダメではないと思うが、すべての新聞、すべての放送が同じように横並びで報道するというのがとてもたまらなかった。しかし東京ではどうにもならないのだろう。多少とも期待できる可能性が残っているとすれば、関西ではそういう暑苦しい、メディアの横並び状況みたいなものは打破して、東京でやっていないことをさりげなく、涼しい顔をしてやってほしかった」

▼前厚生労働事務次官 村木厚子さんは朝日新聞「わたしの紙面批評」（2016年10月15日付）でパラリンピックの報道に触れ、「障害者でもここまでできる、というステレオタイプの「感動ストーリー」になっていなかったか」としたうえで、「レースや試合の生き生き

とした描写や勝敗を分けた要因の詳しい分析などが少なく、障害の背景にある「物語」に傾いた記事も多かったように感じた」と記している。

村木厚子さんが指摘している「物語化」の課題は、日本のオリンピック報道全般にも言えることである。

▼民間放送のオリンピック放送については、放送時間枠など編成面から、またタレントをメインキャスターに起用する番組制作面などから、再構築が望まれる時期が来ている。

手始めにまず、現地スタジオで行われるメダリストへのインタビューから再点検してみてもどうか。質問があまりにも定型化し、新味に欠ける。映像だけでは見えてこない、読み取れない選手の内面などに迫れないか。

そんな中、今回の「リオ・オリンピック」放送の中で、従来のスタイルとはちょっと角度を変えた質問をしていたケースが目をついた。

NHKの朝のオリンピック枠「男子400メートルリレー」で銀メダル(タイム37秒60)を取った4選手に対して、(現地スタジオの)女性アナウンサーがバトンを受けて走っている9秒余りの間、何が目に入り、何をしていたのかと問いかけたのである。すると第一走者の山県、そして第二、第三走者の飯塚、桐生は何を見ていたかあまり記憶にないと話し、アンカーのケンブリッジだけはボルト(ジャマイカ)の姿を追っていたと語っていた。

この短いインタビューの中に中継映像では伝えきれない「400メートルリレー」の違った断面が切り取られていたように思う。

4年後の東京オリンピックでは、競技の生放送に対しては言わずもがな、試合、競技が終わったあとも、パターン化した様式から抜け出し、なおかつ鋭い視点に裏打ちされた深い取材を期待したいものだ。

以上